

放送番組センターレポート

BROADCAST PROGRAMMING CENTER OF JAPAN Report

公益財団法人 放送番組センター

〒231-0021 横浜市中区日本大通 11 横浜情報文化センター
TEL.045-222-2881 FAX.045-641-2110 <http://www.bpcj.or.jp/>

NHK・民放番組上映会 2019 テレビが記録したヒロシマ

8月16日～20日、広島市で「NHK・民放番組上映会 2019 テレビが記録したヒロシマ」を開催した。これは、放送番組センターとNHK広島放送局、民放テレビ局4局が連携し、広島のテレビ局が制作した核や平和関連の番組を上映する取り組みである。被爆70年を機に2015年に始まり、今回が5回目となる。

期間	2019年8月16日～20日
会場	広島平和記念資料館 メモリアルホール
主催	NHK広島放送局、中国放送、 広島テレビ放送、広島ホームテレビ テレビ新広島
共催	放送番組センター 広島平和記念資料館、広島市



上映会は、昨年に引き続き、広島平和記念資料館のメモリアルホール(312席)で実施した。同館は今年4月にリニューアルオープンし、国内外から多くの観光客が訪れている。

上映した番組は、広島の各テレビ局が1975年から2019年までに制作・放送した12本。海外からの来場者にも視聴してもらえるよう、5番組に英語字幕を付け、パンフレットには英語でも番組内容を掲載した。

また、各局が上映会の共通PRを放送したほか、JR広島駅に設置されたデジタルサイネージに告知を表示し、来場を呼びかけた。5日間の来場者総数は1,376人。上映した主な番組は以下のとおり。(【E】は英語字幕付き)
NHK：『市民の手で原爆の絵を』(1975)、『NHK特集 これがヒロシマだ ～原爆の絵・アメリカに行く～』(1982)、中国放送：『8月6日の切符～あの日列車が走った～』(2016)、『原爆ピアノ ～ヒロシマ、あの日を知る音色～』(2018)、広島テレビ：『WATCH 原爆供養塔の聲』【E】(2018)、『WATCH 湯川秀樹の日記 日本は原爆開発をしていた』【E】(2018)、広島ホームテレビ：『テレメンタリー2018 忘れ島、金輪島』(2018)、『ドキュメント広島 ピカドン先生、生きる』(2019)、テレビ新広島：『語られなかった真実 ～原爆で死んだアメリカ兵～』【E】(2004)、『刻みつけられた地獄 ～最初で最後のヒロシマPTSD調査～』【E】(2010)

■テレビとCMで見る平成ストーリー展



8月2日～9月8日、各放送局、制作会社、ACC、東京ニュース通信社などの協力を得て、「テレビとCMで見る平成ストーリー展」を開催した。

テレビコーナーでは、平成31年間の出来事を、話題になったテレビ番組を中心に各年ごとのパネルで紹介すると共に、放送ライブラリー所蔵の『TVガイド』の表紙の展示で時代を振り返った。230冊もの『TVガイド』や、表紙の撮影エピソードが満載の歴代編集長コラムも好評だった。

CMコーナーでは、放送ライブラリーで公開しているACC賞受賞作品から、選りすぐりのテレビCMを上映した。時代の空気が伝わるCM映像に見入り、長時間席を立たない来場者の姿が数多く見られた。



■恒例の夏休み体験教室を開催

子どもゆめ基金の助成を受け、小学生向け体験教室を開催した。

【日テレ体験教室】 7月27日



日本テレビ技術統括局のスタッフが、小学4～6年生とその保護者を対象に、カメラや音声、照明、編集といった放送技術面からの番組作りについて解説した。その後、編集機や音声ミキサーを触ったり、中継車に乗ったりという体験を行った。参加者152名。

【ラジオ・DJ体験教室】 7月30日



FMヨコハマ『Tresen』スタッフが、中学生と共にミニ番組を制作し、グループごとに発表した。参加者13名。またFMヨコハマのスタッフが、小学4～6年生を対象にラジオの歴史等について解説し、身近な道具を使った効果音作りを体験したり、ニュースやドラマ、交通情報等から成るミニ番組を制作した。参加者15名。

【アナウンサー体験教室】 8月7日



フジテレビのアナウンサー3名が、小学4～6年生を対象に、アナウンサーの仕事について話した後、発声練習、原稿読み指導などを行った。その後、放送ライブラリー内のスタジオで本番を体験し、録画を見ながらそれぞれ講評をもらった。参加者28名。

■公共施設での番組利活用

【大阪府立中央図書館】

7月5日～9月23日、同館内の国際児童文学館で「フランダースの犬ーネロとパトラッシュのさまざまな姿ー」展が開催された。これに合わせ、放送ライブラリーの公開番組から『フランダースの犬』（1975/日本アニメーション）の3本（第1、51、52話）を、同会場に設置された視聴ブースで視聴できるようにした。

【吉村昭記念文学館】

8月18日と21日、同館が設置されている複合施設・ゆいの森あらかわ（東京都荒川区）の2階会議室で「吉村昭関連映像上映会」が開催され、放送ライブラリーの公開番組が利用された。上映されたのは『青春の昭和史I 遠い日の戦争』（1979/テレパック）、『新テレビ私の履歴書 吉村昭』（1990/日経映像）、『土曜ドラマスペシャル それからの海』（2012/NHK）の3本。参加者からは「貴重な映像で興味深かった」等の感想が寄せられた。

■2019.6～8の新公開番組

【テレビ番組】

『あすへの記録 廃液

～ある公害闘争の28年～』

1976.4.7 / NHK

『金曜ナイトドラマ 民王 [1]』

2015.7.24 / テレビ朝日

『木曜劇場 風のガーデン [1]』

2008.10.9 / フジテレビジョン

『ドキュメント 未来への記憶

～巨大ダムは何を残したか～』

2000.5.30 / 北日本放送

『やさやさ ～石鏡の海から～』

2016.5.27 / 中京テレビ放送

『映像'16 自衛官とその家族

戦後71年目の夏に』

2016.8.1 / 毎日放送

【ラジオ番組】

『永六輔の見た青森

～ラジオドラマ「雪どけ」をめぐる～』

2018.5.20 / 青森放送

など、テレビ90本、ラジオ6本。

新公開番組 PICK UP!

タチアオイの咲く頃に～会津の結婚～

2016.6.24 / 福島中央テレビ

出演：石橋杏奈、中村蒼、小木茂光ほか
プロデューサー：斎藤裕樹、菅澤大一郎、藤原努

脚本：西田直子 監督：タナダユキ

2015年に開局45周年を迎えた福島中央テレビ初の完全オリジナル脚本ドラマ。

福島県会津出身の美緒（石橋）は、雄太（中村）との結婚報告のため、久しぶりに東京から帰省する。しかし、頑固者の父・茂夫（小木）は、雄太が戊辰戦争の遺恨のある長州・山口の出身であることに不満を隠せない。また美緒も、地元を盛り上げようとする高校時代の友人たちと気持ちのずれ違いを感じ、傍らで支えてくれる雄太とも些細な言葉から仲違いして

しまう。しかし、高校時代に通い慣れた通学路の風景を見て、家族やふるさとなど“当たり前にある幸せ”に気付く。そして、夢から逃げてしまった自分自身と向き合い、雄太や茂夫に対し素直な言葉を口にする。

ほぼ全編福島で撮影が行われ、猪苗代湖や鶴ヶ城など会津ならではの景色が物語を彩る。また、物語は美緒の心の成長を軸にしているが、父・茂夫もまた、復興に貢献したい部下の熱意と、会社の方針との板挟みに悩んでいる。どんな人でも、日々迷ったり、悩んだりしながらお互いに歩み寄り、心に折り合いをつけながら生きているということ、改めて感じさせてくれるドラマだ。第65回日本民間放送連盟賞ドラマ番組優秀受賞。

◆放送ライブラリー公開番組数

テレビ番組16,919本 / ラジオ番組4,512本 / テレビ・ラジオCM11,382本 / 劇場用ニュース映画2,683項目（2019.9.30現在）